

令和5年度 新たな課題に対応した人権教育研究推進校としての取組

1. 研究当初の児童生徒の状況と課題

本校は、北播磨地域最北の中学校であり、自然に恵まれた農村部に立地した全校生 124 名の小規模校である。学校教育目標に「いのちと人権を大切にし、ふるさとを愛し、こころ豊かで夢に挑戦する、自立した生徒の育成」を掲げ、受容的・共感的・肯定的な風土を持った、安全で安心できる学校をめざし、日々教育活動に邁進している。

生徒たちは、たいへん落ち着いた態度で生活できている。昔ながらの地域コミュニティが機能するなかで大切に育まれてきたこともあり、規範意識・協調性ともに高い生徒が多い。

一方、自然と周囲の雰囲気や意見に合わせようとする傾向が見受けられ、自らの思いや考えを表明することに躊躇を感じているものも少なくない。そのため、まわりの生徒と活発に意見交換しつつ考えを深め、自信を持って自らの意見を主張する姿勢を培うことが課題となっている。また、友人関係や家庭環境など、様々な要因から不登校状態にいたる生徒も散見される。多少自らの思い通りに行かない状況下でも、目標を持ち続け粘り強くその実現に努力する意志を養うこととともに、周囲との強く温かい絆を築く力を伸ばしていくことも図っていく必要があるため、このような取組が必要であると考えた。

2. 研究テーマ

「思いを行動にし、主体的に伝え合う力の育成」

3. ねらい

授業の中で「伝え合う力」(①受け止める力 ②発信する力 ③比較する力 ④人間関係を築く力 ⑤問題を解決する力)の育成を図り、互いに思いや考えが大切にされる学校風土を醸成する。学力向上の取組とも連動させ、どの教科においても実現を図る。

「SDGs の視点」を取り入れた授業の推進を図り、「誰一人取り残さない」授業とするため、参加体験型人権学習なども取り入れ、どの生徒にも参加しやすく達成感を得やすい授業をめざす。生徒が参加・体験する中から、多様性を受け入れていくためには、話し合いや、他者と合意形成をしていく必要のあることや、他者を尊重するためには自己の内面を顧みること、人権は遵守されるべき平等に保障される権利であることを実感させる。

4. 具体的な取組

(1) 研究の概要(様式1)

(2) 各領域における取組

ア 教科における取組

・取組の概要(様式2) ・指導案 ・資料、生徒の感想

イ 道徳における取組

・取組の概要(様式2) ・資料、生徒の感想

ウ 特別活動における取組

・取組の概要（様式2） ・指導案 ・資料、生徒の感想

エ 総合的な学習の時間における取組

・取組の概要（様式2） ・指導案 ・資料・生徒の感想

5. 成果と課題

(1) 成果

各領域の中で話し合い活動を取り入れ、どの生徒にも参加しやすく達成感を得られる授業をめざした。学年末のアンケートでは、アウトプットをすることが苦痛でなく、お互いに受け入れられる環境になってきたという意識がデータから見取ることができた。「今年度の最初と比べて、自分は話し合い活動でプラスになることが増えたと思う」と答えた生徒が、「そう思う・だいたいそう思う」を併せて学年平均98%であった。

総合的な学習の時間では実際に体験することを通じて、誰もが過ごしやすい人権に配慮した避難生活をどうすれば送れるのか考えることができた。学校評価では、人権尊重力の項目で、昨年度に比べ+1ポイント上昇した。

(2) 課題

話し合い活動がプラスになると答えた生徒が多かった反面、学年が上がるにつれ、話し合いがマンネリ化したり、意見を持たない生徒がインプットのみになっていたりといった課題も見られた。今後さらに伝え合う力が育つように、改善が必要である。

生徒会の役職に男女の偏りはないが、男女共同参画社会を推し進めるという意識をもって、ジェンダー平等の共生社会を作っていくことが課題である。さらに、「きらめき」や多可町のコアカリキュラムの学習を通じて、様々な立場の人の人権課題に触れていき、共生社会の実現に向けて学んでいきたい。

参加体験型人権学習を取り入れるようにねらいをもって取り組んだが、実際には体験する活動が少なく、「トライやる」の様に体験して学ぶ活動を増やすことができるかが課題である。また、体験などを通して人権課題について考えた直後は、弱者に配慮した考え方ができる生徒が多いが、普段の生活の中では一部人権に配慮しない発言をしてしまう生徒もいる。

依然として登校できなかつたり、別室に登校していたりする生徒が一定数在籍していることも課題である。「誰一人取り残さない社会の実現」に向けて、どの生徒も安心して過ごすことができる環境を作っていく必要がある。新型コロナウイルス感染症における閉校期間などを経て、コミュニケーション力が低下している生徒もいる。そのような生徒たちが伝えあう場面を増やすために、3学期にはコミュニケーショントレーニングも実施したが、さらに実践的な活動を増やしていく中で、主体的に伝える力を生徒に身につけさせたい。

実践報告資料

研究テーマ『思いを行動にし、主体的に伝え合う力の育成』

研究内容【(1)、(2)、(3)、(4)】

学校名（ 多可町立加美中学校 ）

ア 人権教育としてのねらい

「伝えあう力」(①受け止める力 ②発信する力 ③比較する力 ④人間関係を築く力 ⑤問題を解決する力) の育成を図り、互いの思いや考えが大切にされる学校風土を醸成する。

イ 研究の概要

授業の中で「伝えあう力」(①受け止める力 ②発信する力 ③比較する力 ④人間関係を築く力 ⑤問題を解決する力) の育成を図り、互いの思いや考えが大切にされる学校風土を醸成する。学力向上の取組とも連動させ、どの教科においても実現を図る。

「SDGs の視点」を取り入れた授業の推進を図り、「誰一人取り残さない」授業とするため、参加体験型人権学習なども取り入れ、どの生徒にも参加しやすく達成感を得やすい授業をめざす。生徒が参加・体験する中から、多様性を受け入れていくためには、話し合い、他者と合意形成をしていく必要のあることや、他者を尊重するためには自己の内面を顧みること、人権は遵守されるべき平等に保障される権利であること等を実感させる。

領域	教科	道徳 (特別の教科 道徳)	特別活動	総合的な学習の時間
指導者	1年 社会担当	1年 担任	全教職員	担当者 EARTH
実施日	7月10日	10月	通年	1月
取組名	話し合い、他者と合意形成、他者の尊重	ジェンダー平等社会の実現	縦割り班活動	災害時における被災者の人権の尊重
目標	どの生徒にも参加しやすく達成感を得られる授業をめざす。	男女共同参画社会における、ジェンダー平等を考え、だれもが過ごしやすい社会の実現。	行事等の縦割り活動で生徒主体での取組による自尊感情や有用感を体感させる。	様々な場面で困っている人のことを考え、どうすれば生活しやすくなるのか考える。
資料名	「日本列島の人々と国家の形成」(教科書)	「お弁当」(きらめき)		
指導内容や指導方法の工夫等	ICT 端末を活用して少人数グループで教え合う学習を実施する。 タブレットを用いて「国家形成に大きな影響を及ぼしたと思う順」について結果を共有し、それについて話し合う。 ICT を活用することにより、学習が苦手な生徒でも話し合いに参加できる体制づくりをする。	性別により家族の役割や仕事が制限されることなく、皆で取り組む中から、男女が共に互いの人権を尊重し、差別を解消しようとする意識を養う。 多面的、多角的に意見が出しやすいように、発問の内容を工夫する。誰もが意見を出しやすいような体制づくりをする。	これまでコロナ禍でふれ合いのなかった1～3年生を縦割りにし、清掃分担区や体育祭、文化祭で交流することによって、異年齢交流をする。 生徒が主体的に後輩を指導することによって、自己有用感を感じさせる。また、1、2年生も次年度に向けて主体的に取り組む態度を養う。	阪神淡路大震災の話から、避難所での被災者の人権を考える。EARTH と連携し、避難所での生活において困りそうなことを考え、その中で、高齢者や幼児等弱者への配慮ができる生徒を育成する。 また実際にベッドやトイレを組み立てることによって、実際に災害が起きた場合に備える。

実施日：7月10日（5校時）	
領 域：①教科（社会）	
取組名：話し合い、他者と合意形成、他者の尊重	
対 象：1年生	実施場所：図書室
<p>ア ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「伝えあう力」（①受け止める力 ②発信する力 ③比較する力 ④人間関係を築く力 ⑤問題を解決する力）の育成を図り、互いの思いや考えが大切にされる学校風土を醸成する。 ・ 日本が国家としてまとまっていった理由について、粘り強く考察し、自らの考えや学習の状況を振り返らせる。 	
<p>イ 指導内容（指導略案）や取組の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ICTを使用した、誰もが参加できる授業づくり。班を3～4人構成にし、歴史的分野の「日本列島の人々と国家の形成」について話し合わせる。 ・ なぜ日本が国家としてまとまっていったのかについて、弥生時代の特色を踏まえながら、考えさせる。考察が苦手な生徒でも取り組みやすいように、選択肢を設け並び替えさせる。そして、少人数の班編制の中で、全員がアウトプットする場として班で話し合い、さらに自分の班の意見を持ちより他の班ともアウトプットできる機会を全員に設ける。 ・ Google Forms にランク付けを送信し、共有された結果を見ながら話し合う。共有されたデータを見ることによって他者の考え方を知り、話し合いの結果で互いの考えを知る。さらに自分の考えを送信し、その中で良い意見等を教師がとり上げて、次につなげる。どの生徒も自分の意見を発表し、伝え合うことができるようにする。 	
ウ 連携先： ICT 支援員 学習アドバイザー	
<p>エ 連携にむけての取組</p> <p>全員が発表しやすくなるような学習環境を整えるために、ICTの使い方をより工夫し、生徒が見やすくなるクロームブックの使用方法を考えたり、連携している大学の学習アドバイザーに意見を求め、互いの思いや考えが大切にされるような授業改善を行ったりする。</p>	
<p>オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究授業後の研修を行い、改善点を話し合うことによって、「伝えあう力」（①受け止める力 ②発信する力 ③比較する力 ④人間関係を築く力 ⑤問題を解決する力）が育成されているかどうか、どのようにすれば、さらに高めあえるかを協議する。 ・ 研究テーマに沿った内容で各教科がどのように取り組んでいるかを校内研修で確認する。 	
<p>カ 評価の方法</p> <p>ワークシート、感想〔別紙②〕</p>	
<p>キ 成果</p> <p>普段から、伝えあう力の育成に各教科で力を入れていることで、お互いに声を掛け合うことが多く、助け合う姿がみられる。また、普段の生活でも、お互いに声をかけやすい雰囲気が生まれている。</p>	
<p>ク 課題</p> <p>研究授業では、お互いにアウトプットできていたが、教師がその内容を評価し、改善点を指摘することで、さらに上手くコミュニケーションをとることができるようになると思う。また、内容が理解できていない生徒は内容の深まりも少ないので、さらに伝えあう力が育つように、質問の内容を厳選していくことが必要だと考えられる。</p>	

第1学年1組 社会科(歴史的分野)学習指導案

指導者 西賀 陽平

1 単元名 日本列島の人々と国家の形成

2 指導にあたって

教材観

本単元では、日本における旧石器時代～飛鳥時代までを学習する。人類の日本列島到達から、日本が国家として成り立っていく流れを大観できる単元である。この時代において、「稲作の伝来」は社会に大きな変革をもたらしたイノベーションであるといえる。稲作の伝来によって、人々が定住し、指導者が現れ、経済格差が生まれ、土地や水を巡って争いが起こる。このように、一つの歴史的事象が社会に様々な影響を与えたことを学習することができる。単元後半はヤマト王権が列島の広範囲を統一する様子や、聖徳太子や中大兄皇子といった政治を司る人物などを学習する。これらの人物が、東アジア地域の影響と国内の状況を踏まえながら、どのような国家をめざしていたのかを考察させることができる。中国や朝鮮半島、仏教などが政治に影響していた様子を学習することで、歴史的事象には様々な背景があるということを理解させることができる。単元の学習をとおして、歴史的事象を多面的・多角的に考察する力を養うことができる。

生徒観

本学級の生徒は毎時間、3人～4人の班を作り、教え合いながら学習している。少しずつではあるが、分からないことを班員に聞くことができるようになってきた。これまでは地理的分野の学習が中心だったが、地図資料や雨温図、写真資料などを積極的に活用し、調べ学習や発表ができた。歴史的分野については小学校の学習で、一定の知識を得ているが、個人差がある。知識を身に付けるだけでなく、身に付けた知識を活用して、考察する、表現するという学習活動をとおして、深い学びにしていく必要がある。

指導観

本校の研究推進テーマ「思いを行動にし、主体的に伝え合う力の育成」を踏まえ、単元を貫く問い(授業では単元課題とする)を「なぜ、日本は国家としてまとまっていったのだろう」とする。この問いに答えるためには、土地や水に価値が生まれたという経済的視点や、中国への朝貢や渡来人との結びつきといった国際的視点、十七条の憲法や大宝律令の制定という政治的視点が必要になる。多面的・多角的な考察を経て、国家形成の背景や過程を説明できるように促す。また、単元の内容が多く、社会変化が大きい時代であるため、全体を前後に分け、中間考察の時間を設ける。根拠をもとに自分の考えを述べる場面を繰り返し設定し、「主体的に伝え合う力」の育成をめざす。

3 指導目標

- ・稲作の伝来による影響や、東アジア地域との関わり、ヤマト王権の政治の目的について理解させる。【知識・技能】
- ・日本が国家としてまとまっていく過程を、資料から読み取った内容を根拠に説明できる。【思考力・判断力・表現力】
- ・日本が国家としてまとまっていった理由について、粘り強く考察し、自らの考えや学習の状況をふり返ることができている。【主体的に学習に取り組む態度】

4 指導計画(全七次)

- | | | |
|-----|---------------------------------|-----|
| 第一次 | 【仮説】単元を貫く問いの共有と仮説を立てる・・・・・・・・・・ | 1時間 |
| 第二次 | 稲作伝来はどのような影響を与えただろう・・・・・・・・・・ | 1時間 |
| 第三次 | 【中間考察】なぜ、日本は国家としてまとまっていったのだろう | 1時間 |
| 第四次 | ヤマト王権はどのようにして支配を広げたのだろう・・・・・・・・ | 1時間 |
| 第五次 | 聖徳太子はどのような政治をめざしたのだろう・・・・・・・・・・ | 1時間 |
| 第六次 | 天智天皇は、なぜ戸籍を作ったのだろう・・・・・・・・・・ | 1時間 |
| 第七次 | 【課題追求】なぜ、日本は国家としてまとまっていったのだろう | 1時間 |

5 本字の学習(第三次1時分)

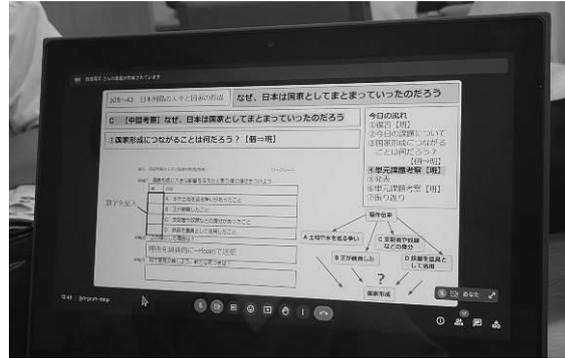
(1) 目標

- なぜ、日本が国家としてまとまっていったのか、弥生時代の特色を踏まえながら説明できる【思考力・判断力・表現力】
- なぜ、日本が国家としてまとまったのか、学習した内容をもとに追求している。【主体的に学習に取り組む態度】

- (2) 「思いを行動にし、主体的に伝え合う力の育成」にむけた工夫
 ○考察が苦手な生徒でも取り組みやすいように、選択肢を設け、並び替えさせる。
 ○発表班をつくり、全員がアウトプットする場を設ける。
- (3) 準備物 授業スライド、Google Forms
- (4) 学習過程

過程	学習活動	指導上の留意点	評価の観点
導入	1 前時の復習をする。【班】 <ul style="list-style-type: none"> ・前回のふり返しシートを確認する。 ・吉野ケ里遺跡から読み取れたことは何か。 ・後漢書「東夷伝」から読み取れたことは何か。 ・魏志「倭人伝」から読み取れたことは何か。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スライドで復習のためのチェックリストを共有し、班ごとのペースで復習させる。 ・弥生時代に国が生まれたこと、争いがあったこと、朝貢したこと、奴隷や支配者などの身分があったことを確認させる。 	
展開	2 本時の課題を考察する。		
	【中間考察】なぜ、日本は国家としてまとまっていったのだろう		
	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項 A～D を「国家形成に大きな影響を及ぼしたと思う順」に並び替える。【個人】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> A 水や土地を巡る争いがあったこと B 王が朝貢したこと C 支配者や奴隷などの身分があったこと D 鉄器を農具として活用したこと </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に作成したマップングを活用させる。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・並び替えの理由を考える。【個人】 ・Google Forms を送信する。【個人】 ・意見交換する。【班】 ・本時の課題を考察する。【班】 	<ul style="list-style-type: none"> ・考えの根拠を明確にさせる。 ・Google Forms の結果を共有し、意見交換のポイントを伝える。 ・自分と他者の意見の相違点と共通点に着目させる。 ・班の意見を全員が発表できるようにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・並び替えの理由が明確か。(思・判・表) ・国家としてまとまっていった理由を説明することができる。(思・判・表)
まとめ	3 発表班に分かれて、発表する。 4 班の意見を再考察する。【班】		
	5 ふり返しシートの「中間考察」を入力する。【個人】	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的に考察できている意見を評価する。 	
振り返り	6 ふり返しシートの「感想」を入力する。【個人】	<ul style="list-style-type: none"> ・できたことや今後の課題を意識してふり返らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元課題に迫ることができたか自己分析ができている。(主)

〔別紙②〕
授業の様子

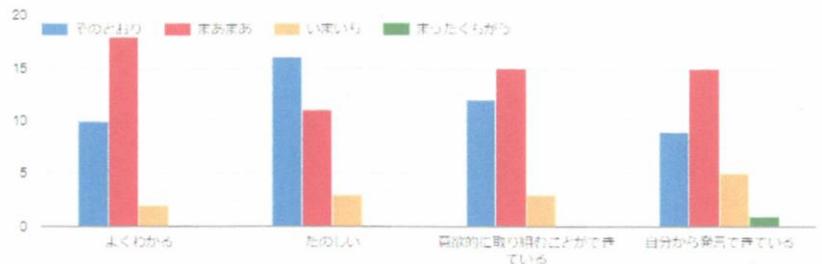


生徒の感想

- ・先生やみんなの話を止めずに友だちがわかっていたらすぐ聞けるし、すぐに意見を言い合えるから一斉授業よりやりやすかったです。
- ・自由形だから、先生の意見を無理矢理に受け入れずに自分で考える。
- ・自分でチェックリストを進めて理解できていくので、学習しやすかった。
- ・難しいところもあったけど、友だちに教えてもらって分かるようになったので良かったです。
- ・友だちと協力し合えて良かったから楽しかったです。
- ・タブレットを使って、meet をするのが分かりやすくて良いと思う。

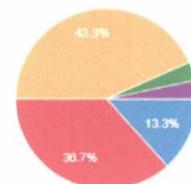
社会の授業について

授業がよく分かったと答えた生徒や楽しいと答えた生徒が多いが、自分から発言していると答えた生徒がやや少なくなっている。



社会の授業形態について

対話中心の授業形態がよいと答えた生徒が41.3%
一斉授業でときどき班活動がよいと答えた生徒が38.7%
一斉授業がよいと答えた生徒は13.3%



実施日：11月17日	
領 域：②道 徳（特別の教科 道徳）	
取組名：人権コアカリキュラム「ジェンダー平等社会の実現」	
対 象：1年	実施場所：教室
ア ねらい 男女共同参画社会における、ジェンダー平等を考え、だれもが暮らしやすい社会の実現。	
イ 指導内容（指導略案）や取組の概要 <ul style="list-style-type: none"> 性別により家族の役割や仕事制限されなく、皆で取り組む中から、男女が共に互いの人権を尊重し、差別を解消しようとする意識を養う。多面的、多角的に意見が出しやすいように、発問の内容を工夫する。誰もが意見を出しやすいような体制づくりをする。 人権コアカリキュラムでは、道徳の教材を使って「LGBTQ」「障がい者」「同和学習」「高齢者について」など系統だてて学習していく。 弁当は母親が作るものだという潜在的な意識があるところから、男女共同参画社会の実現をどのように達成できるか、考えを深めさせていく。「お父さんはどうしてお母さんが係長にならなければ良かったといったのか」という発問から、母親が帰ってくるまで、家族の誰も何もせず家で待っていることや、女性は仕事より家庭を優先するべきだという考えが残っていること、母親自身が、家事は女性がするものであると思っていることの不合理性に気付かせたい。 話がしやすいように、ワークシートに記入させてから、自分の意見をまとめてから発表させたり、他の人が言った意見を共有させたりしてから、自分の意見を深めさせたい。また、保護者の立場でどのように家事分担を決めるか、違う人の立場で考えることによって、だれもが過ごしやすい社会の実現をめざしていきたい。 	
ウ 連携先：PTA	
エ 連携にむけての取組 <ul style="list-style-type: none"> PTA 研修部において人権標語を募集し、保護者の人権への学びの機会を作る。 	
オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点 <ul style="list-style-type: none"> ローテーション授業で、様々な教師が授業を行うことによって、生徒の学びが深まっているかを複数の教師で把握し、評価につなげる。 ワークシートで、ジェンダー平等についての学びが深まっているかどうか点検・評価する。 	
カ 評価の方法 ワークシート 感想〔別紙②〕	
キ 成果 身近な経験から、男女共同参画社会について考えることができた。お弁当を作ることや夕食を作るとは特に女性に偏りやすい家事労働であり、普段から目にすることが多いため、自分の立場で意見を述べることができた。また、身近な題材であるため、教材の主人公の気持ちになって多面的、多角的に考えることができ、多くの意見を述べることができた。	
ク 課題 まだ、家事は女性がするものであるという考えが、家庭の中にも残っている部分が見受けられる。また、生徒会や学級委員の役職では男女の偏りなく立候補しているが、親の世代では PTA 会長が男性であったり、町議会議員に男性が多かったりと、地域全体で取り組む必要があるため、若い世代から、男女共同参画社会を推し進めるという意識をもって、共生社会を作っていくことが課題である。	

第1学年 道徳科学習指導案

1 単元名 お弁当（きらめき）

2 指導にあたって

教材観

本教材は、中学生の咲希が友人との中学校でのお弁当に関するやりとりを通して、性別による固定的役割分担意識について自らの視点を問い直し、家族に働きかけるものである。咲希は友人の優人のお弁当を見て、優人の母親が作ったものだという前提で話を進めるが、実は優人が父親と共に作ったことを知る。咲希の家庭では会社員の母親が家事の全てを抱えており、父親と兄は手伝いもしないこと、また自分にばかり母親は手伝いを頼んでくることを思い出す。下校途中に出会った保育園の先生から、母親が家事と仕事に苦心していたことを教えられる。咲希は帰宅後、母親が仕事で遅くなることを知ると、兄に自身の感じたことを伝え、自分達で夕食の準備に取りかかる。また、その姿を見ていた父親も洗濯物を取り込み始める。

生徒観

本学級の生徒は、祖父母と同居している者が多く、日常の家事については同居している保護者が中心となっている家庭が多い。また、その日の提出物や忘れ物を保護者に学校へ持ってきてもらうなど、生徒自身の生活も保護者に頼っている者が多い。このように家事を生徒に意欲的に取り組ませる保護者は多くない。母親が家事、父親が労働といった昔ながらの価値観が地域に根付いている様子がある。一方で、保護者の多忙さに起因して、掃除や食事の準備、弟妹の世話といった家事の役割を担っている生徒も一定数在籍している。このように様々な家庭環境を背景にもつ生徒が多いため、発問には注意を払うことが必要である。

指導観

本校の研究推進テーマ「思いを行動にし、主体的に伝え合う力の育成」を踏まえ、本時の授業では、各自の考えた意見を友人と共有し、自分と異なる意見や視点に触れ、自らの価値観を揺さぶる発問を設定した。また、保護者の視点に立って、自らが家事に取り組む立場となった際に、性別による固定的役割分担を取り除き、自分・そして家族の想いを考慮して家事分担ができるよう、ロールプレイに取り組ませたい。

また、世界経済フォーラム（WEF）が発表した、男女格差の現状を各国のデータをもとに評価した「Global Gender Gap Report」（世界男女格差報告書）の結果を引用し、世界的な視点から俯瞰しても日本の男女格差を是正していくことが必要であるという事実にも触れさせたい。

3 指導目標

○男女共同参画社会の実現に向けて、性別による固定的役割分担意識を見直し、家庭や学校、地域や職場において、個性や能力を発揮し協力し合おうとする意識を高める。

○性別により家族の役割や仕事が制限されることなく、男女が互いにその人権を尊重し、共に差別を解消しようとする意欲を養う。

○男女共同参画の視点に立ち、性別によらず誰もが自分の個性や能力を発揮できることが、社会全体を豊かにしていくということを認識させる。

4 本時の学習（第三次1時分）

(1) 準備物 ワークシート、授業スライド、教科書、

(2) 学習過程

過程	学習活動	指導上の留意点	思いを行動にし、主体的に伝え合う力の育成
導入	家事にはどんなものがあるか考え、出し合う。 1. 資料を読み、登場人物の気持ちを話し合う	・自分の家庭生活をふり返り、どんな家事があるかを考え、友人の話と比較して家庭による家事の違いを知る。	・ワークシートに自分の考えを書き、他者と比較する。
発問1 「咲希」はどのように優人の母親が弁当を作ったと思ったのか			
	・「咲希」の気持ちの変化を考える。	・咲希には、弁当を作るのは母親だという潜在的な意識があることに気付かせる。	・ワークシートに記入した考えを比較し、新たな気付きがあれば、記入する。
発問2 お父さんは、どうして母親が「係長にならなかつたらよかった。」と言ったのか			
展開	・父親の価値観について考える。	・母親が帰ってくるまで、誰も何もせずに待っていることの不合理さに気付かせる。 ・「女性は仕事より家庭を優先すべきだ」という考え方が女性の社会での活躍を妨げていることを認識させる。 ・母親自身が、家事は女性がするものだと思っているところがあることに気付かせる。 ・長時間労働の問題にも触れ、管理職であってもワークライフバランスが必要であることに触れる。	・父親の思いに触れ、価値観について考察する。 ・母親の行動の裏側にある価値観についても考察し、意見を共有する。
発問3 「咲希」は、どうして「できることをしてみようよ。」と言ったのでしょうか。			
	・「家事」「母親」に対するステレオタイプについて考える。	・咲希が友達や保育園の先生との会話の中で不合理に気付き、自分の家庭をかえようとしていることに気付かせる。 ・男女共同参画社会の実現のためには、家事や育児、介護、仕事について協力し合うことの大切さを認識させる。	・咲希が考えたことを推測し、共有する。 ・各生徒が自身の経験の中で表出した、性差に基づいた価値観について考える。
発問4 保護者の立場で、どのように家事の分担を決めますか。			
まとめ 振り返り	2. 本日のまとめをする。	・多様な考え方を尊重することが大切であることを押さえる。	・自分も、家族も大切にできる生き方について考える。 ・保護者の立場に立って、どのような分担方法が良いのか、意見や方法を共有する。

〔別紙②〕

生徒の感想

- ・家事は、男女の差があまりないので、家族みんなで分担していきたいです。今はお母さんが料理をしているので、洗濯などは私ができるようにしていきたいです。主人公はお母さんが作るのが当たり前と
思っていたので、それを無くしていけるようにしたいです。
- ・この主人公の位置に立ったら同じような行動と言動でいられるかなと思いました。助け合いも大切だ
というのを話の中で感じたので、僕ももっと家のためになるようなことをしていきたいです。
- ・この話を聞いて、僕もこの人がするのが当たり前という考えをもっていたので、それが当たり前じゃな
くて、自分ができることはやっていくことが大切だと思いました。
- ・性の差はあるにしても、生活の面や家事で差は無いので、担任の先生のように、得意な方がやるとい
うふうにしてこのような場面ではいったん性の概念は捨てて考えるのがいいと改めて考えさせられま
した。
- ・私の家は時々お父さんが夜ご飯や昼ご飯を作ってくれているので、お父さんと自分がお弁当をつくるの
は疑問ではなかったけれど、普段から全てのことをお母さんがしているとやっぱり疑問に思うんだなと
思いました。

授業の様子



ワークシート

【別紙②】

道徳資料「お弁当」

1. 「家業」と聞いて、悪い評判もをできるだけ多く書いてみよう。

2. 「瓶希」はどうして、僕人のお母さんが弁当を作ったと思ったのでしょうか。

3. お父さんは、どうして「瓶長にならなければよかった」と言ったのでしょうか。

4. 「瓶希」はどうして「できることをしてみようよ。」といったのでしょうか。

【別紙②】

図表

図表 1 家庭内での役割分担の割合（推定）

性別	役割	割合
男子	家事	約10%
	学習	約90%
女子	家事	約90%
	学習	約10%

6. 上記のような家族関係の場合、あなたはどのように家業の分担を決めようと思いますか。
保護者Aの立場で考えてください。

7. 本日の感想を書いて下さい。

実施日：通年	
領 域：③特別活動	
取組名：生徒会縦割り班活動	
対 象：全学年	実施場所：教室・その他
ア ねらい 行事等の縦割り活動で生徒主体での取組による自尊感情や有用感を体感させる。	
イ 指導内容（指導略案）や取組の概要 これまでコロナ禍でふれ合いのなかった1～3年生を縦割りにし、清掃分担区や体育祭、文化祭で交流することによって、異年齢交流をする。生徒が主体的に後輩を指導することによって、自己有用感を感じさせる。また、1、2年生も次年度に向けて主体的に取り組む態度を養う。 普段の清掃で、1～3年の縦割り清掃班を作る。週替わりで同じメンバーで取り組んでいる。3年生が主体的に清掃を指導することによって、責任をもち、校内をきれいに保つ取組を継続させる。 体育祭では、3年生のリーダーがソーランの踊りを下級生に指導することによって、3年生が役割を自覚し、自己有用感を育む。また、2年生も来年度は自分たちが指導する立場になるという自覚をもち、来年度につながる取組として行う。 文化祭では、3年生のパートリーダーが、全校合唱の指導を行った。小さなグループで指導を行うことによって、グループ内で責任をもちようとする主体的な態度を養う。 生徒会活動では、3年生の部長が中心となって、校内の様々な活動に取り組む。学年を越えたボランティア活動で地域の施設において異年齢交流を図ったり、保護者を交えたあいさつ運動をしたりと、地域に貢献する活動を行う。	
ウ 連携先：PTA・地域	
エ 連携にむけての取組 生徒会活動と連携して、保護者と共にあいさつ運動を実施する。厚生部の活動において、地域でボランティア活動ができる計画を作成する。	
オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点 ・学校全体で縦割り活動が円滑に進むように、教師の配置と役割を考える。 ・縦割り活動が滞りなく進むように、一定期間後の取組の見直し。 ・全校生へのアンケートや学校評価で、生徒や保護者の意見を取り入れる。 ・行事後のふり返りにおける行事目的への達成度の確認。	
カ 評価の方法 Google Forms 感想〔別紙①〕 教師の反省 保護者からの返信	
キ 成果 縦割り班にすることによって異年齢の交流が生まれ、3年生としての自覚がさらに芽生えてきた。 清掃活動では、最初は勝手が分からず戸惑っていたが、徐々に責任をもって、3年生として時間いっぱい清掃場所をきれいにしようとする意識が見られた。体育祭でも下級生が踊りきることができるよう、自分たちの演技を完成させ、指導する場面が見られた。	
ク 課題 コロナ禍が明けて1年目なので、まだ規制があるものもあり、工夫が必要である。見直しをもって、1年間で3年生がリーダーとして主体的に行動ができるように、4月の段階で計画をし、生徒がもつ力を十分に発揮できる期間の設定が必要である。 また、行事準備における体制づくりの見直しが必要で、3年生が十分に自己有用感をもつことができるようにし、また、下級生が見直しをもって次年度に主体的に取り組むことができるようにすることが課題である。	

〔別紙①〕

体育祭と文化祭の生徒の感想

- ・わざわざ自分の時間を削って計画してくれてありがとうございました。
- ・皆をまとめるのが難しかったと思うけど、ソーランリーダーが頑張ってくれたおかげで良い体育祭になりました。ありがとうございました。
- ・少ない時間の中で今年の体育祭を盛り上げてくださったり、丁寧にわかりやすく楽しく教えてくださってとても助かりました。ありがとうございました！
- ・大きな声に心動かされました。すごいなと思うのと同時に来年はこの人達と同じくらい大きな声を出して頑張ろうと思いました。
- ・2年生や3年生の合唱を見て、指揮も声の大きさ、歌い方も私たちのクラスよりうまくて、見習わないとな、と思いました。みんなを楽しませるといのがいろんな人から伝わってきて、いい文化祭だったなと思いました。文化祭の準備や裏方、司会などお疲れ様でした。(1年)
- ・人権作文が全員いい内容で、すごく納得できる部分があった。(2年)
- ・1年生の合唱は初めてで、わたしたち2・3年生以上に緊張があったと思うけど、堂々とした歌声でできなかったです。(2年)
- ・2年生が盛り上げてくれたからとても楽しかった！(3年)
- ・2年生の合唱の一致団結感がものすごく、聞いていてとても心地よかった。(3年)

全校合唱の練習の様子



全校合唱のパート練習の様子



紅白玉入れの様子



全校ソーラン指導の様子



縦割り清掃の様子



実施日：11月～1月	
領 域：④総合的な学習の時間	
取組名：災害時における被災者の人権の尊重	
対 象：全学年	実施場所：教室～体育館
ア ねらい 様々な場面で困っている人のことを考え、どうすれば生活しやすくなるのか考える。	
イ 指導内容（指導路案）や取組の概要 阪神淡路大震災の話から、避難所での被災者の人権を考える。EARTH と連携し、避難所での生活において困りそうなことを考え、その中で、高齢者や幼児等弱者への配慮ができる生徒を育成する。また実際にベッドやトイレを組み立てることによって、災害が起きた場合に備える。 事前に、高齢者、幼児、障がいのある人、LGBTQ+の方などが困りそうなことを書き出す授業を行う。高齢者、幼児等の身体の特徴を示し、避難所での生活で困ること、中学生として工夫して関わられることを考え、ワークシートに記入する。 実際の場面を想定し、避難所での生活において、高齢であっても、障がいがあっても、気持ちよく生活できるような工夫を考える。誰一人取り残されないような避難所の運営ができるように生徒とともに考えていく授業を行う。他者を尊重することによって、自分も尊重される存在であることに気付き、人権が遵守される社会であるべきことを実感させたい。 1月19日には、避難訓練を行った後、体育館で避難所の運営について EARTH の方からのお話を聞き、実際に阪神淡路大震災や熊本の地震で体験されたことを聞く機会を設ける。〔別紙①〕話を聞いた後、ワークシートに、さらに考えたことを記入する。	
ウ 連携先：EARTH・生活安全課（多可町役場）	
エ 連携にむけての取組 事前に段ボールベッド等の備蓄状況と一緒に確認し、組み立て方を教わる。	
オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点 ・ワークシートに記入している内容から、生徒が実際に弱者に関わるためにどのような工夫をすればよいのかを具体的に引き出す。 ・Forms でのアンケート結果から、災害時だけでなく普段からどのように人権を大切にすることができるか考えられているかを確認する。 ・学校全体で事前に役割を決め、避難訓練と共に全員が避難所の運営のことが考えられたり、実際の避難所での活動を想定したりする取組ができるようにする。	
カ 評価の方法 ワークシート・感想用紙〔別紙②〕Forms のアンケート〔別紙③〕	
キ 成果 実際の避難生活において起こりうる様々なケースを具体的に想定し、どうすればより良い避難生活を送ることができるのかを考えることができた。また実際に体験することを通じて、人権に配慮した誰もが過ごしやすい避難生活をどうしたら送れるのか EARTH の方からの話を聞き学ぶことができた。誰一人取り残さない社会をめざして、災害時等の場面だけでなく、日々の生活においても社会的弱者に目を向けた生活について考えることができた。	
ク 課題 想像することはできるが、実際に災害にあったときに具体的な動きや弱者への配慮ができるかどうかは今後も課題である。「トライやるウィーク」の様に、体験活動を通して学ぶことや見えてくることも多いので、そのような体験活動を増やし、具体的な場面での人権課題について考える機会を設けることが必要である。また、自衛隊や地域とも連携した取組等も検討し、災害現場で中学生にもできる具体的な取組を考え、体験する機会があればよいと考える。	

〔別紙①〕

災害と人権 講演会と実習	
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時において被災者が困ることを知る。 ・ケース別に人権が尊重される避難所生活を考えることができる。 ・実際にベッドなどを組み立ててみて、避難生活を想像する。
日時	1月19日（金）5・6時間目
時程	13：25 地震による避難開始（昼休み中教師不在での発災を想定） 13：40 体育館に避難完了 13：45 校長先生の話 13：50 EARTH 溝垣先生のお話 14：10 役場安全課の方より、段ボールベッドとトイレの組み立ての説明 14：20 班別に組み立て開始 15：00 組み立て終了 15：05 EARTHの方より本日の感想・生徒代表よりお礼の言葉 15：10 片付け 15：20 終了 15：30 Google Forms アンケート
参加予定 講師	EARTHより 多可町内3人 西脇市内2人 多可町安全課より 3人
用意	プロジェクター 段ボールベッド・トイレ
班編制	10班
持ち物	水筒 タオル 防寒具



災害と人権 講演会



段ボールベッドの組み立て



ERATHの方々



パーティションの組み立て

〔別紙②〕

授業後の生徒の感想

- ・ いろんな人がいるから、避難所では大変なことがたくさんあるなと思いました。もし、避難する時には誰かのサポートができるように考えて行動したいです。
- ・ いろいろな人がいるので、臨機応変に対応したい。
- ・ たくさんいろいろな人がいるから、それぞれ接し方を考えて話さないといけないということを知りました。
- ・ 災害時はみんなが協力して助け合っていないと生きていけないので、私も地域の人や友だちが災害にあったら助け合いたいです。
- ・ 障がいをもっている方が非常時に困らないように、私たちができるだけ手助けをすることが大切だと思いました。
- ・ どんな人でも安心して暮らせるようにサポートできることを探して行動する。
- ・ 誰もが快適に過ごせる社会や避難所が大切なんだと思いました。

板書の様子



ワークシート

共通について

●被災者の特徴について

身長	目線
呼吸	体調
言葉	
○被災者が困ること	
☆避難所での関わり方の工夫	

●高齢者の特徴について

耳	目
皮膚	心臓
呼吸	骨
筋肉	関節
筋肉	
○高齢者が困ること	
☆避難所での関わり方の工夫	

●外国の人の特徴と困ること

特徴	言語
○外国の方が困ること	
☆避難所での関わり方の工夫	

●障がいしている人の特徴と困ること

特徴	
○障がいさんが困ること	
☆避難所での関わり方の工夫	

●障がいのある方の困ること

特徴
○困ること
☆避難所での関わり方の工夫

●その他()

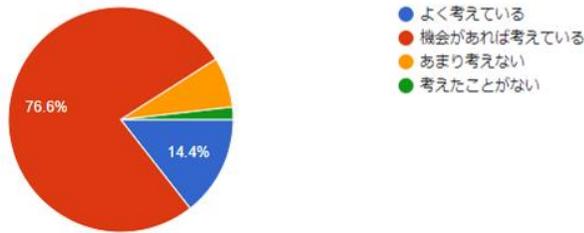
特徴
○困ること
☆避難所での関わり方の工夫

●共生社会についてこれから考えたいこと・取り組みたいこと

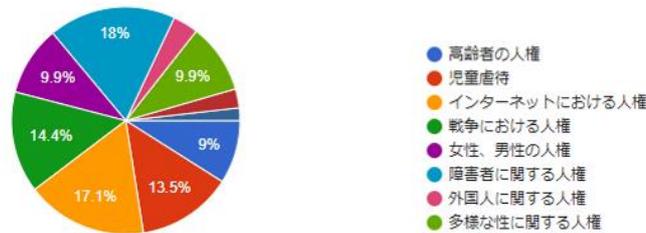
--

〔別紙3〕

普段人権について考えることがあるか。



人権課題と言われて一番に考えることはどれか。



講演会で学んだこと

- 人のプライバシーを守ったり、外国人の方や障害のある方の避難の手助けをする EARTH の方々はすごいなと思いました。
- 災害のときはとても焦ってしまうと思うけど、今回の講演会で学んだことを活かして、少しは冷静に対処していけたらいいです。
- 簡易ベッドの組み立て方や、みんなと協力して行うことの意味。
- まずは自分の命だけけど周りの人たちのことも考えて、手助けをしたりするというのを学びました。どんなときであっても人の手助けをするということを意識したいです。
- 今日の講演会では、色々なことを学びました。今日のダンボールのやつも、人のプライバシーを守るために大切なものなんだと思いました。
- 今まで災害が起こって、どんな人がどんなことに困るかを考えたことはなかったけれども、今日の講演会でこんなにみんな困ることがあるんだと思いました。
- 災害が起きたときにどうやって対応したらいいのかとか、災害で苦しんでいる人たちの生活の苦しさがわかりました。
- 避難するまではよく訓練をしたりしたけど、今回は避難してからの行動を学んだ。
- 災害はいつ来るかわからず、焦ってしまうかもしれないけど、落ち着いて行動して今日教わったことをこれからの生活に活かしたいです。
- 避難所での生活は特に地域の人や外国の方などいろいろな方がいるので、生活の仕方を学びました。みんな苦しい状況だと思うので、共に助け合って人権を大切に、避難所での生活や普段の生活をしていきたいです。
- ダンボールが床より暖かいこと。ダンボールの便利さ。
- いざ災害がおきたら自分のことでいっぱいになってしまうと思うので、今の生活から思いやりをもって生活することが大事だと学びました。
- 一人ではできないことでも、周りの人たちと協力することで、助かる命があるということ。
- 災害は回避することが出来ない問題なので被災地にいる方や周りの人に親切にすることは当たり前ですが、日頃から周りの人に親切に接したりすることが大切なのかなと思いました。
- 驚きです。パーテーションやトイレを準備するのが思っていたよりもずっとたいへんだったことや、講演会で聞いた話などでそう感じました。
- 障害がある人がいたら工夫して情報を伝えること。

- 災害時は自分のことばかりになることが多く他人に気を使うことも大切。
- 災害が起こると、人権のことを忘れがちなので、そういうときこそ、人権が大切だなと思いました。
- いざとなったらパニックになってゴソゴソするのではなく、冷静な態度をとって周りの人や地域の人に接していきたいです。
- 災害が起こったからではなく普段の生活から周りにも目を向け、自分の命は最優先だけど周りとも協力したいです。
- 今まで中々そういった経験をしたことがなかったので今回初めて聞いて大変さを知ったし、これから活用していけたらいいなと思いました。

これから人権について考えていきたいこと

- 理不尽な差別に苦しむ人を減らすこと。
- 誰にでも幸せに生きる権利があるので尊重して行きたいと思いました。
- これからも相手のことを考えて生活したいです。
- どうしたら人権問題を減らすことができるのか。
- 常日頃から思いやりをもって人権のことを考えること。
- 困ってるからではなくていつでも助けたり手伝ったりをする。
- 災害が起きたから人権を大切にするのではなく、災害が起きる前からずっと人権を尊重することを意識して生活していきたいです。
- 石川県能登半島地震で辛い思いをされている方々のために少しでも支援をしたいと思いました。
- 人と違うからや価値観が合わないからと除け者にせずその個性を認め生活していきたい。
- これからは今までより学習したことをしっかり意識して人にたくさん優しくしていきたいです。
- 皆が過ごしやすく過ごす方法。
- いじめや差別とかでも人権を失うことになるから尊重すること。
- 自分のことだけを考えずに周りをしっかり見て、その人がどんなことで困っているかなどを考えて自分ができることを探して、周りの人を助けたりサポートしていきたいです。
- 人権問題は、震災のときにはプライバシーが大切だと思いました。なので、そのようなことを考えていきたいです。
- みんな、人権は大切だと言うことは知っているのに、戦争や差別など人権に関する事件はたくさんあるので、それらが0になればいいなと思います。
- 次に災害があったときに心の余裕がなくても相手のことを考えて行動したいと思いました。
- 人権や個性はそれぞれにあるから、自分のことだけでいっぱいにならないようにしたい。
- インターネットなどを適切に扱ったり、人のことをしっかり考えて生活していきたいです。